

# 1 平成30年度の中海の水質測定結果

## (1) 環境基準等の達成状況 (図1-1, 図1-2)

環境基準点12地点における水質測定結果 (COD (化学的酸素要求量)、全窒素及び全りん)

○第6期湖沼水質保全計画で定めた水質目標について、CODは目標値を達成。全窒素及び全りんは未達成。ただし、全窒素は9地点で目標値を達成。全りんは10地点で目標値を達成。

○環境基準値はいずれも未達成。

図1-1 中海の環境基準点の位置図

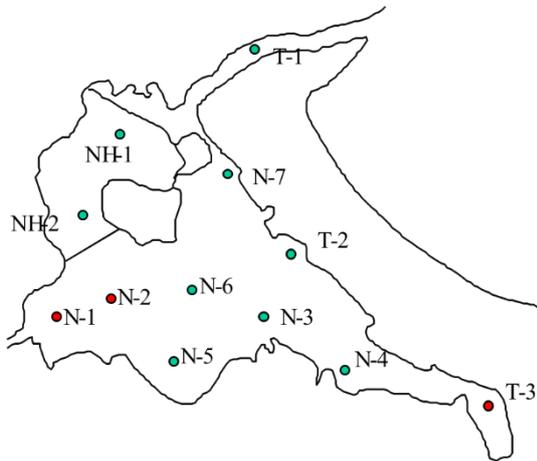
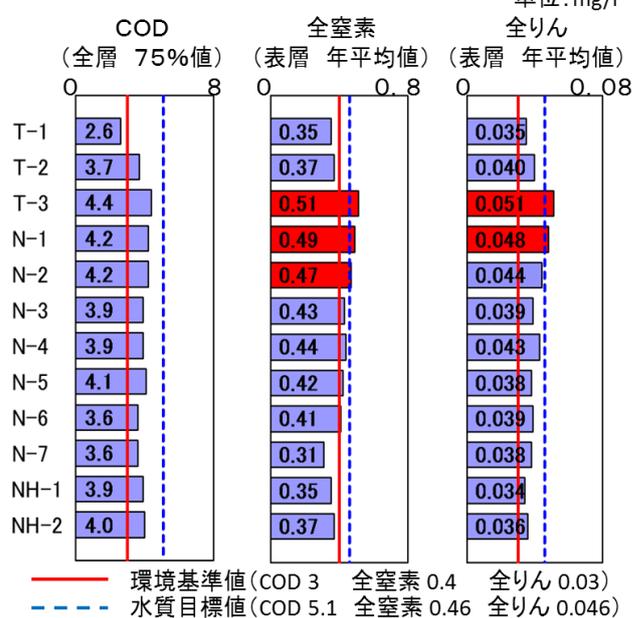


図1-2 中海の環境基準点の測定結果



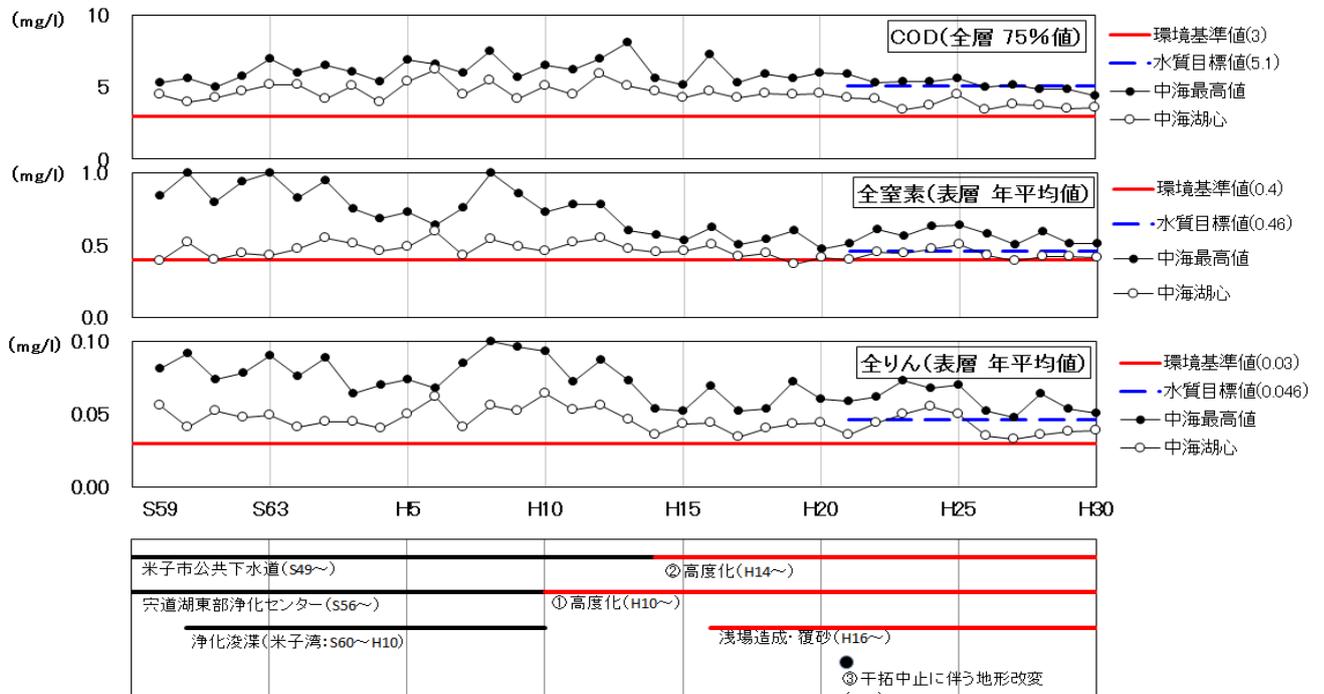
## (2) 経年変化 (図1-3)

○CODは、最高値が昭和59年以降でもっとも低い値であった。湖心は過去5年の変動の範囲内で低めの値で推移した。

○全窒素は、最高値が昨年度と同じで、湖心は昨年度より低下したものの過去5年の変動の範囲内であった。

○全りんは、最高値が昨年度より低下し、湖心は昨年度より上昇したものの過去5年の変動の範囲内であった。

図1-3 中海の水質の経年変化

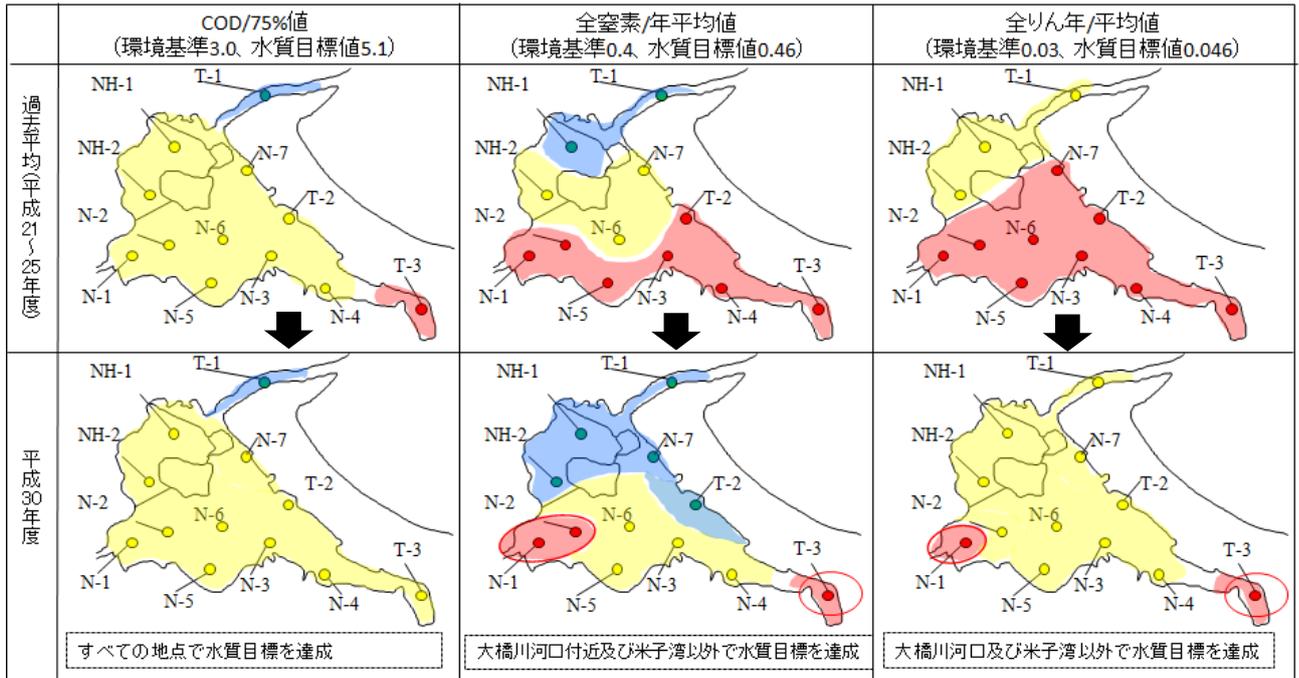


※ 湖心部、米子湾の水質に対して、全窒素、全りんについては①の前後、②の前後で水質が改善。③の前後では、大きな傾向変化は見られず、下水道の整備および高度処理化による水質改善が大きく寄与していると考えられる。

備考: 「最高値」とは環境基準点のうち、各年度において最も高い地点の値。

(参考) 中海の地点別水質経年変化比較

●:水質目標値未達成 ●:水質目標値達成だが環境基準未達成 ●:環境基準達成



※ 図中の着色は、各地点の水質を次の区分で分類した場合における中海全体の水質を概念的に表したものの

(赤:水質目標値未達成、黄:水質目標値達成かつ環境基準未達成、青:環境基準達成)

(3) 赤潮の発生状況(図1-4, 図1-5)

○平成30年の赤潮確認範囲は、安来承水路および錦海地区における局地的なものであった。

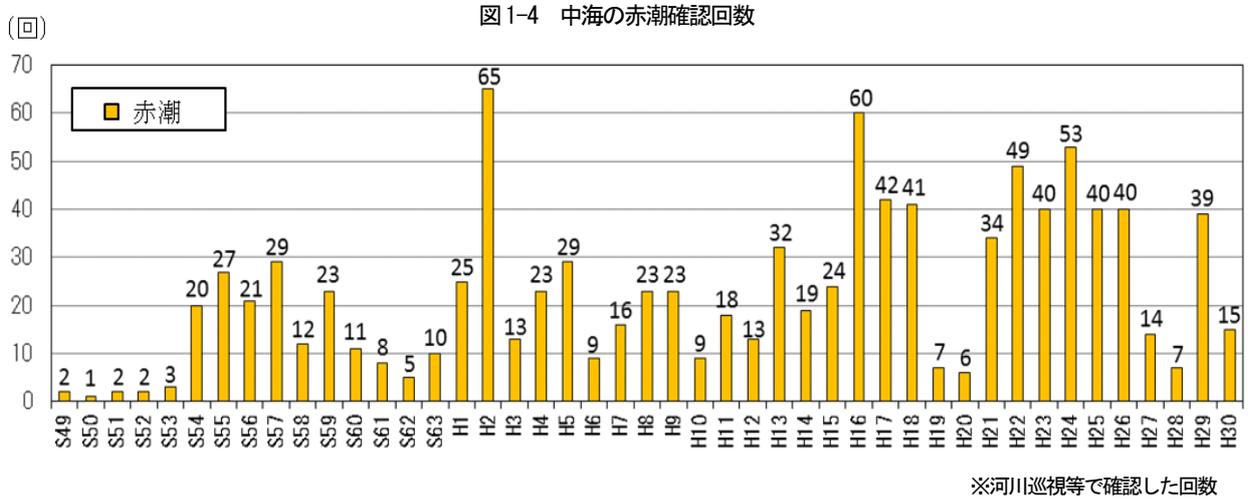
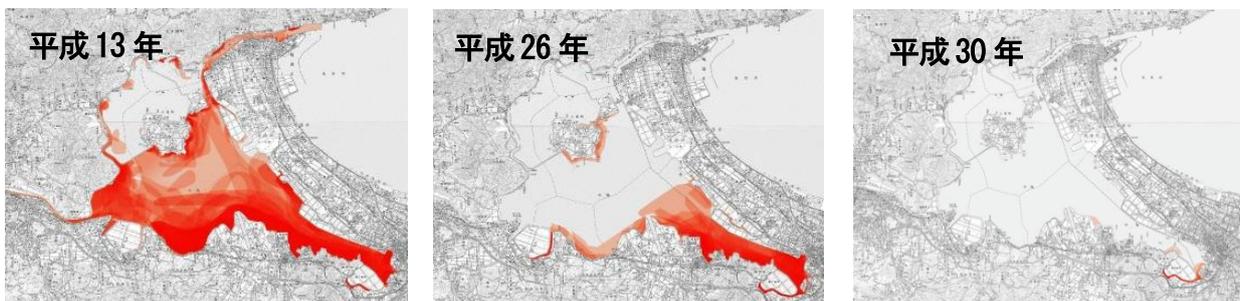


図1-5 中海の赤潮発生範囲図

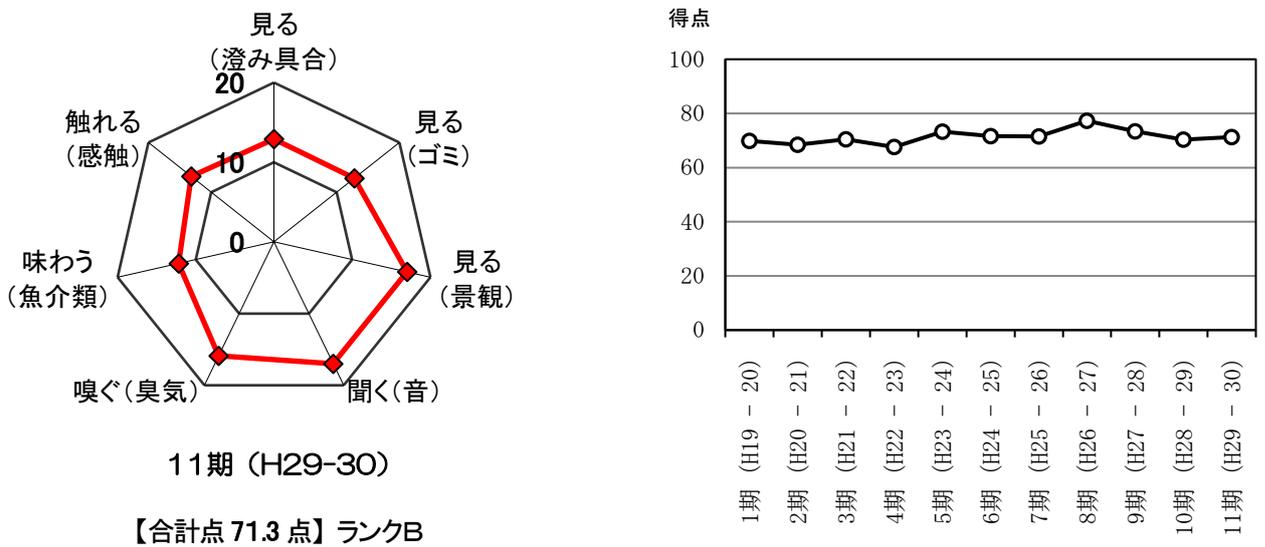


※着色は赤潮が確認された範囲を示す

(4) 五感による湖沼環境調査結果 (図1-6)

- 住民に親しみやすく分かりやすい環境指標として「五感による湖沼環境調査」を両県12地点で実施。
- 平成29年10月～平成30年9月期は地域住民がモニターとして38名、6団体が参加。
- 平成29年10月～平成30年9月期は平均が71.3点、目標とする80点以上の地点は1地点。
- 経年変化を見ると、得点は概ね横ばい。

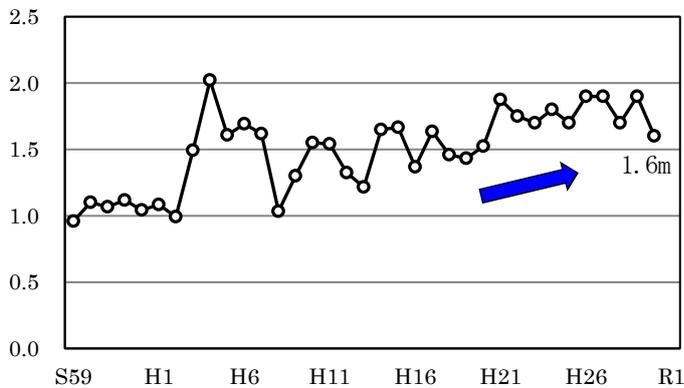
図1-6 今期の五感指標の結果及び経年変化 (中海全体)



(5) 米子湾における透明度 (図1-7)

- レクリエーション等で多くの人が集まる機会があり、水質改善の必要性が高い米子湾において評価。
- 平成30年度の年度平均値は1.6m (目標値: 概ね2m)。

(m) 図1-7 米子湾の透明度の経年変化



## 2 湖沼水質保全計画の進捗状況

第6期湖沼水質保全計画（平成26～30年度）において、平成30年度までに達成すべき目標を定めている各種施策は、一部事業を除き、概ね計画どおりであった。

### (1) 生活排水対策

生活排水に係る汚濁負荷量の削減対策は重要項目であるため、施設の整備及び高度処理化を進めている。

図2-1 生活排水処理施設の整備状況（島根県）

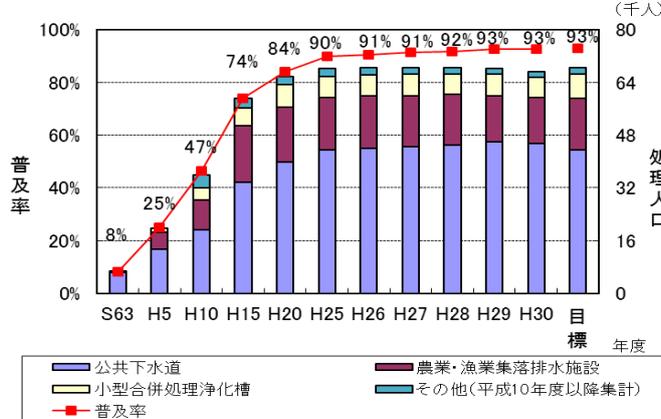
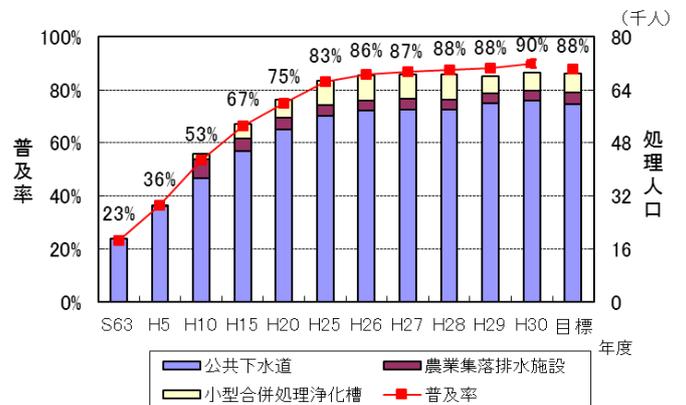


図2-2 生活排水処理施設の整備状況（鳥取県）



### (2) 流出水対策（図2-3、図2-4）

代表的な対策として、農業地域対策、市街地対策、自然地域対策、流入河川直接浄化対策などを実施している。

図2-3 流出水対策の進捗状況（島根県）

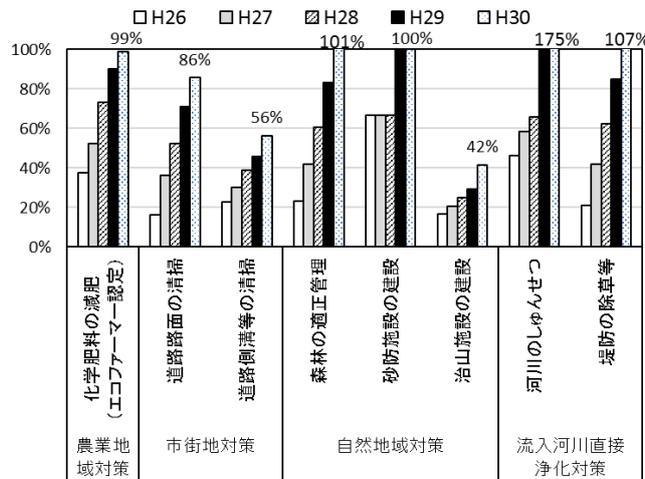
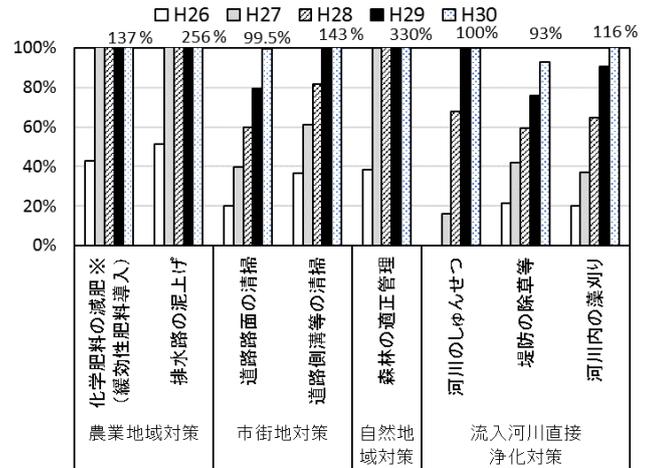


図2-4 流出水対策の進捗状況（鳥取県）



注1) H30年度までの累計目標事業量を100%とする。

注1) ※は、累積評価が難しいため、単年度実績で評価。その他は、H30年度までの累計目標事業量を100%とする。  
 注2) 数値化が可能な事業を抜粋（急傾斜地崩壊防止施設建設は、現在、地元関係者とも調整しながら、詳細設計、対策工事を実施している。）